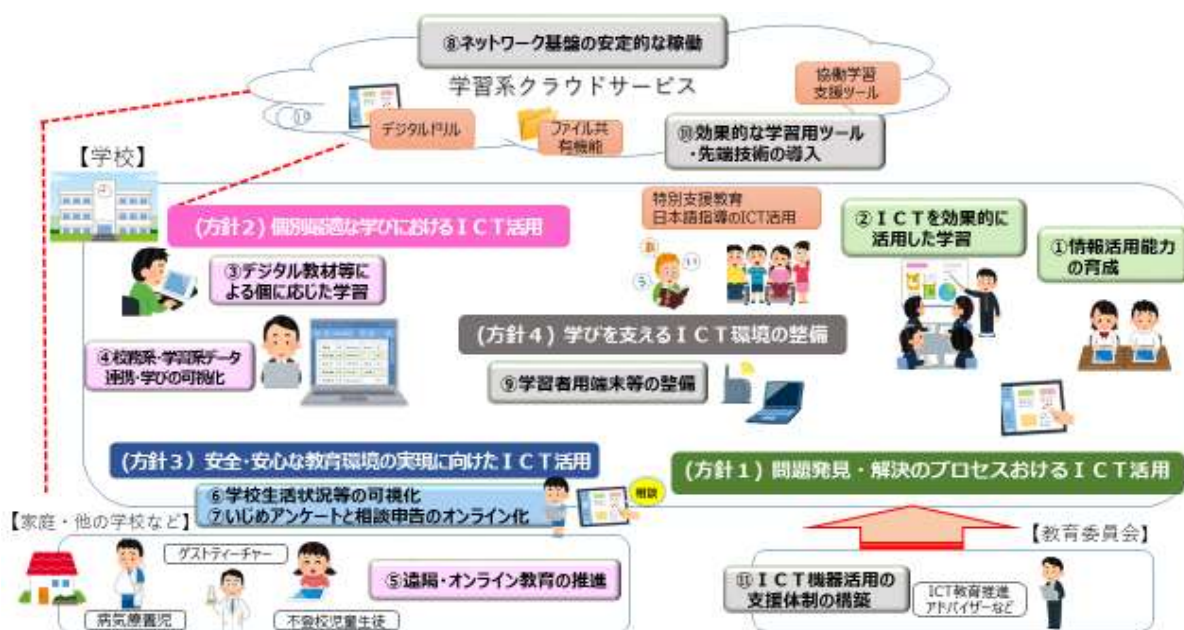


- (図表 8 具体的な取組方策)



- 16

(図表9 問題発見・解決のプロセスにおけるICT活用)



(1) ① 情報活用能力の育成

- ・ 情報活用能力は、平成 28 年 12 月に出された中央教育審議会答申において、「世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力」と定義されました。
- ・ 学習指導要領では、言語能力、問題発見・解決能力と並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」の一つと位置付けられているとともに、「情報活用能力を発揮させることにより、各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつながっていくことが一層期待される」と解されており、児童生徒の発達段階や教科等の役割を明確にしながら教科横断的な視点で育んでいくことが重要であるとされています。
- ・ 児童生徒の情報活用能力の育成を図るためには、各学校でより具体的に捉えることができるよう、児童生徒に身に付けさせるべき資質（情報活用能力）を整理することが必要です。
- ・ 本市では、文部科学省の示す情報活用能力の体系表例を参考に、具体的な授業の場面や発達の段階ごとに、必要な情報活用能力の育成の実態把握に活用できるよう、情報活用能力チェックリストを作成しました。
- ・ 各校では、情報活用能力チェックリストを活用し、児童生徒の情報活用能力がどの程度育成されているか、知識・技能面だけでなく思考力・判断力・表現力の観点を含め実態を把握するとともに、様々な教育実践において、各校のカリキュラム・マネジメントのもと、小・中学校等において教科横断的に情報活用能力を育成していきます。
- ・ また、プログラミング教育は情報活用能力の一部であり、コンピュータの動作に必要なプログラムの学習を通して、コンピュータの仕組みを理解し上手に活用していく力

を身に付けることは、あらゆる活動においてコンピュータ等を活用することが求められるこれからの社会を生き抜く子どもたちにとって、極めて重要です。

- ・ 小学校等におけるプログラミング教育では、児童がプログラミングを体験することにより、プログラムのよさ等への気づきを促し、コンピュータ等の活用への意欲を喚起するとともに、学習活動に意欲的に取り組むことにより、「プログラミング的思考」を育成します。
- ・ 中学校等におけるプログラミング教育は、教科学習として技術・家庭科で扱うよう位置付けられており、小学校等での学習を基礎として、体験的な学習をとおして、プログラミングに関する知識及び技能やプログラミング的思考だけでなく、「問題を見いだし課題を設定し解決できる力」を育成します。
- ・ なお、高等学校における各学科に共通する教科情報科への円滑な接続に向けて、小・中学校等で系統立てたプログラミングに関する学習を進めます。
- ・ あわせて、自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任を持つとともに、犯罪被害を含む危機を回避し、情報を正しく安全に利用できるようにするために、実践事例を活用しながら情報モラル教育を進めます。

(2) ② ICTを効果的に活用した学習の充実

- ・ ICTを活用した学習場面としては、協働学習や一斉学習、個別学習の3つに分類することができます。
- ・ 本市では、問題発見・解決学習のプロセスとして、問題発見・気づきの場面、見通しを持ち考える（自らの考えを持つ、他者と協働し学びを深める）場面、学習のまとめ・次への探求の場面、学習確認の場面などの学習過程を整理し、各教科等の特質に応じて適切な学習場面でICTを効果的に活用した学習を実施します。
- ・ また、学習者用端末を家庭に持ち帰り、家庭学習の充実を図ります。
- ・ 今後各校の実践を共有し、さまざまな学習場面での活用を進めます。

(学習場面に応じたICTの活用)

A 協働学習

協働学習支援ツールを用いて、互いの意見の考え方を議論して整理します。

また、グループで役割を分担して共同で作品を制作します。まとめたものをグループや学級全体における発表や話し合いを通じて、問題解決したことを共有したり、自身の考えを深めたりします。

さらに、オンラインを活用して他校との協働授業や海外の学校、大学等の専門家・地域等と交流し学校の壁を越えた学習を行います。

B 一斉学習

指導者用デジタル教科書やデジタル教材を大型提示装置に提示しながら動画・アニメーション・音声等を活用することにより、児童生徒の興味関心を広げるとともに、児童生徒の問題発見を促します。

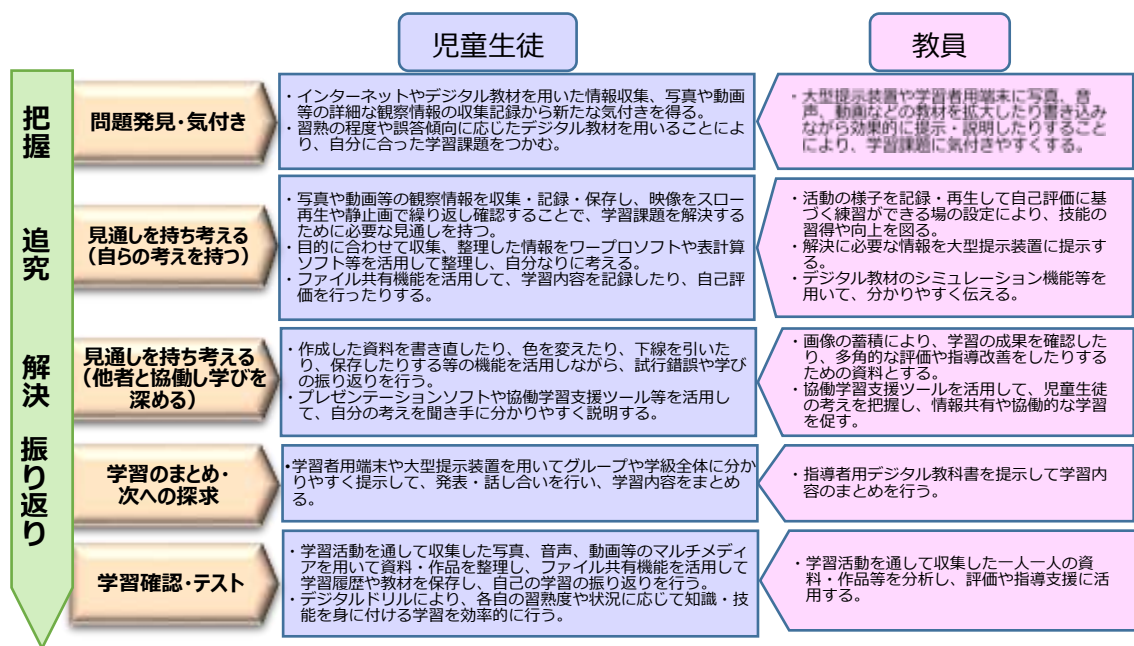
C 個別学習

問題解決のために必要な情報について写真や動画に記録したり、インターネットなどを用いて収集したりします。収集した情報を整理し、自分の考えを、試行を繰り返しながらプレゼンテーションソフトなどにまとめます。

さらに、デジタル教材を活用することにより思考を深める学習に取り組みます。

学習過程において、必要に応じて学習者用端末を家庭に持ち帰り、デジタル教材や協働学習支援ツール、インターネット等を活用して個に応じた学習を行うことができます。

(図表 10 1人1台環境における問題発見・解決のプロセス)



※ 問題…児童生徒が解決すべき事柄

学習課題 (めあて) …児童生徒が問題を解決するために行うこと